ミャンマー寺院
学校支援報告書

2017．11，23～11，25

新発田中央ロータリー
2017～18年度　会長　遠藤　利行
2017～18年度　国際奉仕委員会　委員長　大堀正幸

新発田中央ロータリーは発足から、ロータリークラブの理念の元、奉仕活動を行ってきました
国際奉仕、社会奉仕、職業奉仕など、活動は多岐にわたります
本事業は、ベトナム、カンボジア支援に続き、5年後と継続支援を実施しております、三か国目のミャンマー支援となります

2014～2018年の5か年事業として計画され
本年度は4年目となります
我々の支援の下、学校の内装は充実し
昨年実施された、サッカー用具などの支援により
近隣にはない大変充実した学校となりました

この度は、新潟日報社の協力の元、一般の方々から広く支援を働きかけ、32名の支援者より
1、メロディオン（ピアニカ） 43個
2、リコーダー（笛） 49個
3、絵具セット 28個
4、その他（ギター、タンバリン、カスタネット、文具など）
の多数の寄贈を受けて、現地へ届けました

いよいよ来期は最終年度となります
子供たちの教育向上や
何と言っても、目の輝きがより増すように
ロータリークラブ会員が一丸となって
実施していきたいと思います

寄贈者及び会員の皆様
ご協力、ご支援大変ありがとうございました

新発田中央ロータリー2017～18年度 会長 遠藤 利行

ミャンマーでの教育問題

- 学校に最初から入学しない子どもも含めると50%の児童が小学校を修了していません。その中で寺院学校や夜間学校が、子どもたちの受け皿となっています。2013年には寺院学校は、全国に1504校あり、26万人を越える児童・生徒が在籍しています。2001年の時点では、1,028校だったので、学校数が急増していることが分かります。

- 小学校を卒業しないまま成長した若者や成人は読み書きや計算の能力が不足していることから、衛生や保健、自分の保護のための知識が得られず、就職の機会も限られることから社会的に不利な立場におかれています。情報省はこれまでビルマ語でのみ出版するという方針を転換し、少数民族の言語での出版を奨励・支援する政策を打ち出していますが、それらの本はまだ不足している状態です。

実施概要

支援内容

1、　ニコニコボックスより拠出し2000ドル（約20万円）を寄贈（安中ロータリークラブも同様）

2、　チャリティーゴルフで募った支援金による文房具等の寄贈

3、　一般会計より予算化された支援金による文房具等の寄贈

4、　新聞社による記事広報により集めた文房具及び楽器類（ピアニカなど）の寄贈

日程

2017年11月23日～2017年11月25日

行程

新潟～成田～ヤンゴン～寺院学校

支援訪問者

新発田中央ロータリークラブ会員

遠藤、吉田、野沢、片山、並木、佐藤、大堀

安中ロータリークラブ会員

三好

ヤンゴンから寺院学校までの道のり
ヤンゴン～カイアングゴン

来年度へ向けて

寺院学校、ご住職及び、先生へインタビューを実施しました

寺院は教育はもちろんですが

地域の防災拠点も担っているそうです

その為の、洪水時などの地域住民などが一堂に会するときの

インフラ（トイレなど）が足りないようで、今後計画されているようです

また、先生方は、今までの支援ももちろん大切ですが

絶対的な子供たちの、制服やサンダルなども、使い古されていて

足りないようです

今回の訪問支援はとても現状が良く分かり

今後の支援や、日本の教育なども一考させれれる

充実した支援となりました

最後に、この度の支援活動に協力いただいた多方面の方々
本当にありがとうございました

国際奉仕委員長　　大堀　正幸